

粉飾決算の よくある手口と 見抜き方

粉飾企業の倒産が急増しています。ここでは粉飾決算の典型的な手口を紹介し、決算書などから粉飾決算を見抜くポイントを解説します。

公認会計士事務所 原田会計
税理士・公認会計士

原田 秀 樹

会社はなぜ粉飾決算に
手を染めるのか

粉飾とは決算内容を実態よりもよく見せることをいいますが、中小企業は本来、粉飾決算とは無縁のはずです。

なぜならば、中小企業の大半を占める同族企業の場合、株主はオーナー経営者+その親族というケースがほとんどだからです。経営者が業績や株価に対して抱くプレッシャーは、そう強くないのが通常です。

なお、話を簡略化するため、本稿では、

・ 中小企業Ⅱ同族会社Ⅱ非上場会社

・ 大会社Ⅱ非同族会社Ⅱ上場会社
という前提で進めます。

中小企業では、仮に経営者に自発的な理由で業績をよくしたいという思いがあったとしても、多くの場合、それは本来的な意味での好業績が欲しいということであって、実態の伴わない好決算を組むことに意味はありません。

一方、上場企業の場合、株主は

より多くの配当や株式の値上がり益を得るために、経営者に対して、常によい業績を上げ、株価を上昇させることを求めます。そして、公開されている売上・利益の予測値に対して実績値が及ばないことになる株主は下がり、場合によっては経営者が解任される理由にもなり得ます。

では、そのような心配がないにもかかわらず、中小企業が粉飾決算をしたくなるのはどのようなときでしょうか。それは、主に「資金繰りに窮しているとき」です。

資金繰りに困っていないのに粉飾決算を行なうと、利益が水増しされてしまうため、その分余計に税金を支払う必要が生じます。極論ですが、誰も見ない決算書の見栄えをよくするために、余分な税金を払う愚かな経営者は存在しません。

逆に、余分な税金を払ってでも粉飾決算を行なうのは、資金繰りに窮している企業だということになります。この場合に決算をよく見せたい相手はいえ、お察しのとおり、主に金融機関や取引先（仕入先）です。

決算内容が悪ければ、金融機関の場合は、プロパー融資ではなく

信用保証付き融資となり保証料が必要となる、利率等の融資条件が悪くなる、あるいはそもそも融資が受けられないといったことになります。

取引先の場合は、決済条件が悪くなったり、取引ボリウムが限定されたり、または取引を断られることにもなりかねません。

資金繰りに困っていて、なんとか悪くない条件で融資や取引条件を引き出したいため、少しでもよく見える決算書を提出する。中小企業が粉飾決算に手を染めるのは、そのようなケースが多いと考えられます。

中小企業における
粉飾決算の類型

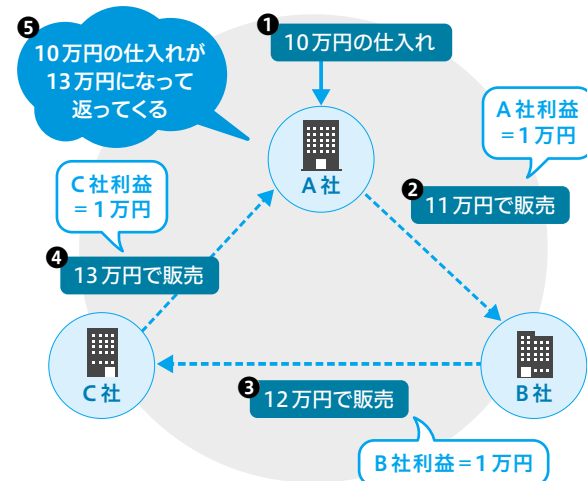
(1) 架空売上の計上

最も単純な粉飾の形態です。実行パターンは極めて多岐にわたりますが、極端な話をすれば、

※ 売上計1,000万円／売上税1,000万円

このような仕訳を1本入れてしまえば、それで1000万円の売上・利益の水増しが完了してしまいます。

上場企業のように内部統制が備わっていたり、監査法人の監査を



利益を水増しするため、一定のルールに基づいて計上すべき減価償却費を故意に計上しない方法です。減価償却費とは、固定資産の価値の減少部分を費用化したものとして説明されますが、減価償却を実施しないことによって費用を減らし、結果として利益を増加させることができます。

減価償却の未計上に関しては、法人税法上、減価償却が任意であることから、比較的安易に実行されやすい利益水増し方法です。

(4) 在庫の過大計上

中小企業の場合、在庫の棚卸しは上場企業ほど厳密に行なわれていないケースが非常に多いです。

上場企業では、棚卸しは日程やカウント方法、棚卸報告にいたるまで、手続きを厳密に定めることが求められます。そのため棚卸しの結果についても、基本的には実態をそのまま表わしているといえます。

しかし、中小企業の場合は、そういうた棚卸しのルールが厳密に定められていません。誤解を恐れずにいえば、経営者の胸先三寸で在庫の残高を決定することができます。

(5) 債務の未計上

在庫の過大計上による利益の水増しは非常に「お手軽」で、減価償却費の未計上とともに安易に実行され得る方法です。

企業は決算に際して、財・サ―ビスを受取り済みで、かつ支払いが済んでいないものについて、買掛金あるいは未払金として計上します。この買掛金や未払金を意図的に計上しないことによって、利益を水増しすることができます。

たとえば、決算月に大規模な修繕工事を行ない、工事自体は年度

内に完了したものの、支払いは翌期となる場合において、本来であれば次のような決算修正仕訳を切る必要があります。

修繕費 × 田 / 米 払 金 × 田

故意にこの仕訳を脱漏させることにより、当該修繕費を翌期に先送りすることができます。

粉飾決算を見抜く
ポイント

では、このような粉飾決算を見抜くにはどうすればよいか？

まずは、対象会社から直接、あるいは帝国データバンク等を通して決算書を手に入れよう。できれば、3～5年分あるとなおよいです。

もつとも、残念ながら決算書を見ただけで粉飾を確定的に発見することはできません。しかし、前提知識があれば、ある程度のあたりをつけることは可能です。

(1) 大局的な決算書分析

数年分の決算書が入手できた
ら、まず貸借対照表と損益計算書の数字を勘定科目ごとに時系列で並べて、「高い目線」で数字を眺めてみます。そして、「この科目は増加傾向だな、この科目は横ば

いだな」という数字上の事実と、業界知識や経済情勢の知識と合わせてみること、決算書の不自然な部分を捉えることができるようになります。

筆者の場合は、たとえば売上の推移、利益額および利益率の推移、現預金残高の推移をまずチェックし、大まかな業績の推移を把握します。また、それ以外の勘定科目についても、著しく増減しているものがあれば、持っている周辺情報との整合性を確認します。

重要なのは、この数字はこのように動くはずだ（あるいは動くはずがない）といった「期待値とのずれ」を確認する感覚です。

② 個別的な粉飾の指標

以下は、大局的な決算書の分析を実施したうえで、より個別に検討する必要のある事項です。

① 売掛金や受取手形残高が増加傾向

商売とは、財・サービスを提供するだけではなく、代金を回収して初めて完結します。売掛金や受取手形（以下、「売上債権」といいます）というのは、その代金が未回収の状態を指します。

黒字倒産という言葉があります。これは、損益計算上は利益が

出ている、すなわち黒字なのにもかかわらず、会社が倒産してしまうことです。その主な原因の1つが、この売上債権の増加と未回収です。

粉飾決算との関連でいうと、架空売上があると、回収できない売上債権残高が増加する傾向が出てきます。

したがって、売上が伸びている、あるいは横ばいなのに、現預金が増えずに売上債権ばかりが増えているようなケースは注意を要するといえます。

② 棚卸資産残高が増加傾向

前述のとおり、中小企業の場合、在庫は水増しを行なうことが非常に容易です。したがって、売上高の推移に大きな変化がないにもかかわらず、棚卸資産残高が急増あるいは増加傾向にある場合は、在庫の水増しの可能性が疑われます。

また、帳簿上でのみ在庫の水増しを実行した場合、不自然に売上総利益率（売上総利益÷売上高）が上昇するので、そちらも合わせて確認するとよいでしょう。

あるいは、難易度は高いですが、公認会計士監査の手法を借りることも考えられます。対象会社

の倉庫等を訪問する機会をつくり、さりげなく現場の従業員に「近頃、在庫が増えているみたいですね」などというようなことを雑談のなかで聞いてみるのです。

もし、粉飾行為が現場のあずかり知らないところで実行されていた場合は、きつと「そんなことはない」という回答が返ってくることでしょう。

③ 売上高や利益の額が不自然に横ばいもしくは上向き

決算書を分析する場合に重要な考え方の1つに、

「あるべき決算書の姿」を想定し、それと矛盾する情報を見つけて掘り下げる

というものがあります。

たとえば「対象会社の属する業界は、近年円安の影響で業績が悪くなっている」ということがわかっている場合、それにもかかわらず業績がよくなっているケースなどは注意が必要かもしれません。

もちろん、これだけで粉飾の有無を判断できるものではありません。その分析結果を補完する追加の情報が必要となりますが、「この景気の悪いときに、売上が右肩上がりなんてあるわけない」という感覚は大切にしたいものです。

④ その他の指標

上記のほか、減価償却費の未計上は、損益計算書の減価償却費と、貸借対照表の固定資産残高の関係を見れば概ねわかります。

また、現金残高（預金残高ではありません）や貸付金残高が増加傾向にあることは、売上債権の増加と同様に架空売上の端緒である可能性があります。

利益率が同業他社と比べて異常に低い場合などは、循環取引をはじめ、不自然な取引を行なっていることがうかがい知れます。

* * *

以上、「粉飾決算の見抜き方」を説明してきましたが、いずれにせよ、「売上債権が増加しているから架空売上だ」などと判断できるものではなく、本当に粉飾決算をしているかどうかは、よほど証拠を揃えないと確定的な判断は下せません。

しかし、粉飾決算を行なっている会社の多くは「サイン」を発しています。特に中小企業が行なう粉飾決算は、サインが明らかであることが多々あります。

決算書を手入れた際には、一度数字を並べて、高い視点から眺めてみてはいかがでしょうか。

